

おおるりカップの試合方式

1. コート、ネット、ボール、パドル

(ア) コート

ピックルボールの専用コートを使用できる環境が用意されている場合は、可能な限り専用コートを用いる。専用コートを使用することができない場合は、バドミントンコートで代用する。

※ ピックルボールのシングルスではダブルスと同じラインを使用するため、バドミントンコートで代用する場合はバドミントンのシングルス用ラインを使用しないように注意する。

(イ) ネット

可能な限り以下を実施する。

1 m (メートル) 以上の長さを測れる用具 (メジャー等) を用意し、試合開始前に対戦者同士が以下の3ヶ所のネットの高さを一緒に確認する。

- ネットの左右端部 91.4 cm (2ヶ所)
- ネット中央部 86.4 cm (1ヶ所)

(ウ) ボール

ボールのメーカーは問わないが、USAPAの公認球を使用する。ただし、USAPAの公認球を用意し辛い現状においては、以下の特例を設ける。

「試合用に用意されたボールを試合開始前に試打や目視確認等によって双方で確認した上で、双方が合意したボールを使用する。」

(エ) パドル

パドルのメーカーは問わないが、USAPAの公認パドルを使用する。ただし、USAPAの公認パドルを用意し辛い現状においては、以下の特例を設ける。

「お互いのパドルを試合開始前に双方で確認した上で、双方が合意した場合はそれらのパドルを使用する。」

2. 大会の進行にあたっての注意点

(ア) 本大会は従来のように一日ですべての試合を消化する方式ではなく、開催期間内に行われる普段の練習等の中で参加者同士がシングルスを行う機会を設けて大会を進行させていく形式とする。

したがって本形式による大会の進行を速やかにするため、参加者は開催期間終了日に捉われることなく、開催期間の前半から積極的に対戦を進めていくこと。

(イ) 対戦者同士の活動拠点が離れている場合は、開催期間内に対戦者同士が連絡を取り合った上で対戦日時と対戦場所を決め、試合を行うこととする。

元八王子ピックルボールクラブの担当者は、このような対戦が滞らないよう、必要に応じて対戦者へ日程調整の連絡を入れる。

3. 試合のルール

(ア) 試合は15点、1ゲームマッチで実施する。14-14でデュースになった場合は2点差がつくまで試合を継続して勝敗を決する。

(イ) セルフジャッジ方式を基本とする。

セルフジャッジのやり方については別紙「おおるりカップにおけるセルフジャッジのやり方」を参照。

(ウ) ピックルボールのシングルのルールはダブルスのルールとほぼ同じであるが、以下の点はダブルスと異なるので注意する。

- ① サーブは1本のみ打つことができる。サーブ側がポイントを取った時は継続してサーブをすることができる。ポイントを取れなかった時はサイドアウトとなり、サーブ権が対戦相手に移る。自分のスコアが偶数（0、2、4・・・）の時はフォアサイド（右側）からサーブし、自分のスコアが奇数（1、3、5・・・）の時はバックサイド（左側）からサーブする。
- ② どちらかのプレイヤーのスコアが先に8点に到達した時点でサイドチェンジを行う。

(エ) 参加者の実力レベルに基づくハンディキャップは設けないこととする。ただし、プレイヤーの年齢層が広いことから、開催期間初日である2019年4月1日時点の年齢に基づいて以下の通り年齢別のハンディキャップを設けることとする。

※ 競技者数が少ない現時点での国内の状況に基づく措置とする。将来的にはレベル別、年齢別に大会を開催する方向を目指していく。

① 年齢別ハンディキャップの詳細

| 年齢 | ハンディキャップ |
|---------|----------|
| 29歳以下 | 0点 |
| 30歳～39歳 | 1点まで |
| 40歳～49歳 | 2点まで |
| 50歳～59歳 | 3点まで |
| 60歳～69歳 | 4点まで |
| 70歳～79歳 | 5点まで |
| 80歳以上 | 6点まで |

- ② ①項のハンディを受けたくない場合は、試合開始前に対戦相手へ「ハンディ無し」を申告する。ハンディを受ける場合は、試合開始前、対戦相手に「ハンディ〇点」（双方のハンディキャップ差内の任意の点数。詳細については以下の③項から⑥項を参照）を申告することにより、希望通りのハンディで試合を開始することができるものとする。したがって間違いが生じないよう事前の打ち合わせをしっかりと行うこと。
- ③ ①項のリストは対戦相手がハンディキャップの無い29歳以下の場合を想定している。例えば年齢が25歳の参加者Aと53歳の参加者Bが対戦した場合は、Bに3点のハンディを得る権利が生じることになる。この状況下でBが「ハンディ有り」を希望すれば、Bから見て最大3-0のスコアで試合を開始することが出来る。
- ④ 一方、46歳の参加者Cと62歳の参加者Dが対戦した時は、それぞれが受けることのできるハンディの差である2点のハンディを受ける権利がDに与えられるものと解釈する。したがってこの場合はDから見て最大2-0のスコアで試合を開始することが出来る。
- ⑤ ハンディキャップを適用した場合の開始スコアは、ハンディの少ない方のスコアを0として設定する。
※ ①項のハンディがそのまま開始時のスコアとなるわけではないことに注意すること。
- ⑥ 同年代の対戦者同士の場合、前述のハンディキャップは適用されず、ハンディのない状態（0-0のスコア）で開始する。

4. 対戦結果の報告と公表

- (ア) 対戦実施者は対戦終了後1週間以内を目処に、対戦結果を元八王子ピックルボールクラブの担当者へ報告する。
- (イ) 元八王子ピックルボールクラブは、参加者から報告を受けた対戦結果をまとめ、速やかに元八王子ピックルボールクラブのホームページで公表する。
- (ウ) 元八王子ピックルボールクラブは、大会終了後に総合成績を公表する。

5. 対戦記録の扱い、対戦順位の設定と表彰

- (ア) 試合は参加者全員による総当たり方式とし、開催期間最終日までに関以外全参加者と対戦する。
ただし、国内の活動拠点が複数の地域に分かれている現状を踏まえ、以下の特例を設ける。
「最終日までに関すべての試合を消化できなかった場合、自分以外の参加者の8割以上と対戦し、かつ自分を除く最終順位上位2名のうちの1名以上と対戦した者の結果を正式記録として扱う。」

※例1・・・参加者が8名の大会で、自分を除く7名のうちの6名(7×0.8=5.6 ⇒ 6)以上の参加者と対戦し、かつ自分を除く最終順位上位2位以内の参加者のうちの1名以上と対戦していた場合、対戦結果は正式記録として扱われる。

本特例の2つの基準(8割以上の対戦率、自分を除く最終順位上位2名のうちの1名以上との対戦)のうちのどちらか片方でも満たすことが出来なかった場合、対戦結果は参考記録として扱われ、同時に表彰対象から外される。

※例2・・・参加者が16名の大会で、自分以外の12名の参加者と対戦して対戦率を8割以上としたが、自分を除く最終順位上位2位以内の参加者のどちらとも対戦していなかった場合、対戦記録は参考記録として扱われる。

- (イ) 対戦結果に基づく順位は以下のaからdの条件の順に決定する。
 - a. (勝利試合数/全試合数)から算出した勝率が高い方を上位とする。
 - b. 勝率が同じ場合、{得点/(得点+失点)}から算出した得点率が高い方を上位とする。
 - c. 得点率も同じ場合、直接対戦により勝利した方を上位とする。
 - d. 前項cで直接対戦できなかった場合、最終順位が一位の参加者との対戦結果の得点率が高かった方を上位とする。どちらかが最終順位が一位の参加者と対戦していなかった場合は、対戦していた方を上位とする。最終順位が一位の参加者を基にした本項の条件で決着しなかった場合は、二位、三位、四位の参加者と順次繰り下げて決着を試みる。
- (ウ) 参加者は自らや仲間の戦績を優先するために不当な棄権や手抜き等をせず、全ての試合で全力を尽くして戦うこと。
- (エ) 主催者である元八王子ピックルボールクラブは、大会終了後に上位のプレーヤーを表彰する。なお、表彰対象者は参加者数に応じて以下の通りとする。

| | |
|--------|------------------|
| 6名以下 | 1位(優勝者)のみ |
| 7名~11名 | 1位(優勝者)と2位(準優勝者) |
| 12名以上 | 1位~3位 |

6. 不明点について

- (ア) 不明点が生じた場合は可能な限り事前に元八王子ピックルボールクラブ(担当 鎌田)へ問い合わせ、

事前に解決しておくこと。

- (イ) 試合中に不明点が生じたり当事者で解決できない問題が生じた場合は、元八王子ピククルボールクラブ（大会実行委員長 岩下、若しくは、担当 鎌田）へ問い合わせること。

<以下余白>